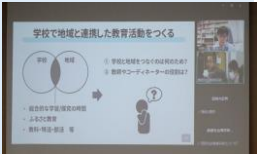





研修の様子【概要】

<p>研修名</p>	<p>コーディネーター研修</p>
<p>日時</p>	<p>令和6年6月7日（金）</p>
<p>場所</p>	<p>いわみーる 401研修室</p>
<p>テーマ</p>	<p>～子どもと大人がともに“集って楽しむ”～</p>
<p>内容</p>	<p>【説明】 「『結集！しまねの子育て協働プロジェクト』について」 島根県教育庁社会教育課 社会教育主事 若槻 慎也</p> <p>【講義】 「しまねの社会教育で大切にしていること」 （オンライン） 島根大学大学院教育学研究科・講師 大野 公寛 氏</p> <p>○様々な現場で様々な活動に取り組むコーディネーターがいることを知る…（地域学校協働活動推進員、魅力化コーディネーター、社会教育関係施設職員、地域連携を担当する教職員等） ○<u>立ち位置を意識する</u>…（役割は、マネージャー、プレーヤー、サポーター？）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇学校で地域連携した教育活動をつくる ◇学校や地域で関係者を巻き込む ◇学校と地域の協働体制を構築・運営する  <p>【実践発表】 「想いをカタチに～地域と学校をマッチング～」 邑南町教育委員会 井原公民館 主事 藤井 祥平 氏 学びのまち推進課 藤井 勇輝 氏</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○邑南町のコーディネーターについて ○邑南町の公民館について ○井原公民館のコーディネートについて ○まとめ ○今後の展開 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ◎地域コーディネーターとの連携 ◎中学校との関係づくり、連携 ◎大学との交流、連携 </div> <ul style="list-style-type: none"> 意識して取り組んでいること ◎地域、学校、子どもたちがやりた いことを最優先 ◎継続性 ◎作られたビジョンに向かって全力 で協力 ◎スピード感（レスポンスは早く） ◎相談しやすい、されやすい関係性 づくり <p>【演習】 「見つけよう！実践の第一歩!!」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 講義・実践発表を踏まえ「参考にしたい」と感じたこと、「それはなぜ？」を書く。（フリットーク） ■ フリップを見ながら、メンバーの「困り感」や「悩み」に対して、参考となるような「うまくいった事例」や「心がけていること」、「こうしてはどうかな」などのアドバイスを紹介し合う。（ラベルワーク） ■ 「明日から実践してみたいこと」について、カードに書く。 そのカードに、メンバーから一言ずつエールを書いてもらう。   <p>【全体講評】</p> <p>今回の研修は、多様な方が集っている。悩みや現状を持ち寄り、現場を越えて学びあうことが大事だ。</p> <p>邑南町の事例発表について、子どもたちとスタッフの意見交換会は、子どもにとっては学びであり、大人にも刺激になった。また継続性のある事業が行われていた。</p> <p>活動が生まれた最初のところは興味深い。学校と地域、両者の思いをキャッチし、学校の学びやニーズを、よりリアルな生活に結びつけていた。地域側は、活動の悩みを新しい視点で解決していき、地域課題をしょうがないではなく、学習課題へ結び付けた。</p> <p>コーディネーターの活動は、黒子、裏方で支えていくイメージだが、環境を醸成する、黒子になりながら基盤を作っている意識をもってほしい。（一部引用）</p>
<p>受講生の感想 （一部抜粋）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の立ち位置を意識しながら参加したことで、色々な意見や事例を吸収できた。その一方でアウトプットの機会が少し足りなかった。 ・大野先生の話は、毎回わかりやすく、今後の事業についてのヒントをいただいた。 ・実践発表は、熱量が伝わり刺激になり、高校とのCNについても参考になった。 ・最後の演習がとても楽しく、同じグループの皆さんからエールをもらえ満足。 ・演習の時間はとても楽しく、いろんな話ができ、それぞれ立場は少しずつ違って悩みも同じではないが、大変なことも苦しいことも笑って言い合えるところが良かった。 ・学校で地域と連携した教育活動をつくる上での視点を整理することができた。